

—発行所・連絡先—
相愛大学人文学部同窓会

〒541-0053
大阪市中央区本町4丁目1-23
TEL/FAX (06)6261-2040(直)
E-mail sj-dosokai@soai-jinbun-dosokai.org
URL <https://soai-jinbun-dosokai.org/>

南風

MINAMIKAZE

「南」は母校のある南港を、「風」は便りに通じ、「南港からの便り」という意味をこめて名づけました。

会長あいさつ

会長 一階由香



同窓生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。この会報が、みなさまのお手元に届くころは心地よい秋の風が木々の葉を揺らしているのでしょうか。

突然ですが、「山下惣一(やました そういち)」という名前をご存じでしょうか。わたしは恥ずかしながら、つい先日知ったばかりです。「農民作家」と言われる氏は、佐賀県唐津市に生まれ、地元の中学校を卒業後、家業の農業を継ぎ、30歳を過ぎて作家となりました。もちろん、農業から離れたわけではなく、「農民作家」の名のとおり、農業をテーマにした小説、ルポを執筆し続けました。

農産物の輸入自由化に反対の立場をとり、今では聞きなれた「地産地消」「身土不二」を唱えた人です。この人の人生を振り返ったとき、わたしは柳田國男の言った『常民』ということばを思い出しました。普段の生活の中でこのことばは使わないし、すっかり忘れていたことばのひとつです。にもかかわらず、きわめて鮮明に『常民』がおりてきました。柳田國男は大学時代の授業で何度か聞いた名前です。もちろん、それ以前にも知っていましたが、特に研究対象にした人でもありませんでした。しかしながら、同じ兵庫県出身ということもあり、折にふれて目にする名前、何冊か著書も読んだくらいの「知っている人」でした。

柳田自身は英語のfolk、あるいはドイツ語のvolkの訳として『常民』をあてたようですが、辞書的には民俗を継承し、保持している基層文化の担い手と定義されます。農耕の国日本はそういう人たちの手で支えられ、発展してきた国です。

政治的なことを切り離しては考えられない現代の生活ですが、「日本人は農なき国を望むのか」と山下惣一が憂う国であってはならないはず。今、このときだからこそ、立ち止まって自分の生活、自分に続く未来の生活を考えてみることは大切です。そこに、活かされる力こそわたしたちの学んだ「人文力」だと思います。

今号には、卒業生の「糸加(いとか)」さんをご寄稿くださいました。横にある絵を見て「え!! 糸加さん」と思うかたもいらっしゃるでしょう。お仕事の都合上、卒業年やご本名はお知らせできませんが、同じ学び舎に思い出を紡いだ人です。この場をお借りして、御礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

学長挨拶

学長 積徹宗



人文学部同窓会の皆さま、平素は母校の教育・研究・社会活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

皆さまもご存知のように、本学の人文学部では、各専攻を通して人間や社会について深く考察することを学びます。じっくりと時間をかけて自分自身を見つめ、他者を観察し、生きていくための知

見を身にそなえていく、そういう教育を行っています。ついつい人文学系や社会学系の学問が軽視されがちな今、とても重要な役目を担っている学部だと思っています。

ところで、ここ数年やけに「生きづらい」という表現を耳にするようになりました。30年以上にわたる経済の停滞や、家族形態の変化や、近代の学校教育制度の行き詰まりなど、確かに生きづらいと感じる場面が多いのでしょうか。よくわかります。

一方、仏教では「そもそも生きるということは苦である」と説きます。これだけ聞くとすぐネガティブな印象をもつかもしれませんが、この場合の「苦」の原語はドゥッカとかドゥフクハでして、「思い通りにならない」の意です。つまり、生きていけば思い通りにならない事態と向き合わねばならない、思い通りにしなければ苦悩が生じる、というわけです。仏教的に言えば、そもそも人生は生きづらいのがデフォルトなんですね。

そんな生きづらい人生を生き抜いていくために、私たちは「自分の思いを表現する」ことに取り組む必要があります。自分の思いを言葉にしたり、歌や詩で表したり、絵や造形で表現したりする、それは苦難の人生を生きるためにとても重要な営みです。私たちは、自分の思いに合った表現を求めて生涯学び続けます。人文学部の学びは、まさにここに基礎づけられています。生涯通して学び続けるための身心を養うのです。人文学部の一学科六専攻は、そのためにちょうど良いサイズだと考えています。

これからも相愛大学は、大規模大学とは異なる、目のいきとどく丁寧な教育・育成を実践してまいります。どうぞよろしく願い致します。

学部長挨拶

学部長 藤谷 忠昭



晩秋に訪れた留学生が、「Ah! Kaki!」と叫びました。見上げると、柿の実がひとつ、垂れ下がっておりまして。思えば、キャンパスでは、多くの自然を楽しむことができます。駅前の桜が入学生を迎え、夏休みには耳を刺す蝉しぐれに襲われます。正門のそばに曼珠沙華が咲き誇るとき、学部への小路の銀杏の黄葉が目がくらみ、キャンパス全体も赤く覆われます。入ってすぐの杜若、食堂裏手の雪柳などを覚えていらっしゃるかもしれません。グラウンドへの並木は、台風で大方、倒木しましたが、合間では、いまま紫陽花を楽しめます。

荒々しい自然もときに気持ちを引き締めますが、手が加えられ、社会の中で愛でられてきた草花もまた、味わい深いものです。さまざまな自然に接しながら日々、忙しく活躍されていることかと察しますが、たまには、かつて過ごされた学び舎の、万物との交わりに、思い馳せてくだされば幸いです。

先生から

坂田 真穂



卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、久しぶりに余暇や会合を楽しんでいるという方もいらっしゃることでしょう。

私は令和元年に着任いたしました。それから1年経たずして世間はコロナ禍となり、対面授業や学内イベントも中止となりました。そのため、皆様と人文学部同窓会でお目にかかる機会もなく今日に至っています。

私の専門は臨床心理学で、着任前は、病院や学校等で臨床心理士および公認心理師として、心理検査やカウンセリングに従事しておりました。着任後は、人文学部に公認心理師の養成カリキュラムを立ち上げるべく奔走して参りました。

公認心理師は、わが国初の心のケアの国家資格であり、取得にあたっては、学部課程で国が定めた25科目を履修後、養成大学院への進学、国家試験の合格が必要となります。同カリキュラム初年度生である2020年度生も4回生となり、今年は精神病院、総合病院、障害者福祉施設、児童相談所、少年鑑別所、少年院、教育センター等での実習に励みながら、大学院受験にもチャレンジしています。

公認心理師資格取得のカリキュラムや臨床心理学の授業を通じて、学生たちは、人をケアすることが自分自身もケアされることであると学び、自らを愛するよう他者を敬愛する心を身につけています。これからも、當相敬愛の精神をもって社会に貢献できる人を育てていきたいと思っております。

高木 学



卒業生の皆さん、お元気ですか。アニメ・ゲームなどのオタク的分野を研究するサブカルチャー論を担当しています。こういった分野を大学で学ぶことになじみのない方が多いかもしれませんが、今、他学科もふくめて非常に多くの学生の皆さんに受講してもらっています。この分野の人気が高くなってきていると感じます。

突然ですが、皆さんは今、何かを「推し」ていますか。

近年、ファンとなっている対象を「推し」と呼び、ファンとしての活動を「推し活」と呼ぶことが浸透してきています。かつて「オタク」という言葉で語られていたファンとしての行為や愛情が、今では「推し」や「推し活」という言葉に変わっています。私個人としては、この「オタク」から「推し」への変化をととても良い変化であると感じています。

その理由は、「推し」という言葉が「応援や推薦」の行動を中心としている点です。「応援・推奨」とは、主体的でポジティブな行為であり、他者への批判や嫌悪の表明にはつながりにくいものです。このポジティブなイメージは、不寛容な雰囲気広がりがつつある現代で、ファン同士の嫌悪や批判合戦を減少させる防波堤の役割を果たしていると感じます。

それぞれの趣味や価値観を否定し合うことなく、自分の好きなものについて語り行動することは、今後の社会にとって有意義な活動です。皆さんも、恥ずかしがることなく「推し活」を楽しんでいただきたいと思います。

そして、その「推し」の一端に「相愛大学」を加えていただけると幸いです。今後ともどうかよろしく願いいたします。

▶ 懐かしの先生から

人文学部の思い出

中村 圭爾 先生

同窓会の皆様、こんにちは。年配の会員の方々には初めてご挨拶申し上げます。

私は、2010年4月から2023年3月まで、13年間、人文学部に勤めさせていただきました。

その初日の4月1日、本町学舎での新任式の前に、まず南港学舎に参りました。その時、駅前から校門までの満開の桜並木と、それを通り抜けた所にある深い森のような木立と、その木々に包まれた落ち着いた奥ゆかしい学舎の佇まいに強い印象を受けました。

その頃、人文学部は中国のいくつかの協定大学から留学生を受け入れていて、2011年度からは、その学生と日本出身学生とで、国際化時代の異文化交流を担う人材の養成を目指す文化交流学科を新設するという計画が進んでいました。中国に関係する研究をしていた私もその学科に参画するというのが、お招き頂いた理由でした。

残念ながらこの意欲的な学科は、入学生があまり集まらず、2年で改組になりましたが、私はその後も、留学生だけではなく、専門分野以外の授業も含めて、いろいろな授業を担当させて頂きました。やがて留学生の出身地域もアジア各地に広がり、彼らとの交流が貴重な経験となりました。日本出身学生諸君も次第に増えはじめ、学生同士互いに交流する姿も見られるようになり、国際色のある学部となっているように思います。

人文学部が、このような国際色に建学の精神を反映させ、他の大学に見られない独自性を発揮して、ますます発展されることを、心から期待しているところです。



▶ 卒業生から

糸加 さん

人文学部日本文化学科卒の糸加と申します。現在、ライトノベルと漫画原作を書いています。

4、5歳くらいから「童話作家になりたい」と周囲に話していた私ですが、はっきりと「小説を書きたい」と思ったのは忘れもしない高校1年の夏休みでした。スティーブン・キングの『スタンド・

バイ・ミー』（映画じゃなくて原作小説の方ですよ）を読んだ私は、活字のひとつひとつが全身に染み込むような感覚を得て、雷に打たれたかのように小説を書きたい衝動に駆られたのです。が、結果はポロポロでした。宿題の読書感想文は書いても、小説は一編も書き上がりませんでした。私には小説を仕上げるだけの、技術と知識と題材が圧倒的に足りなかったのです。けれど、そのことに気付くまで、長い長い試行錯誤の時間が続きました。

私のそんな試行錯誤を助けてくれたのは、相愛大学でした。そもそも近代文学を学ぼうと入学したのですが、それ以外の、ここに来なければ出会えなかった知識の種をたくさん手に取ることができたおかげで、自分がどういうものに興味を持つのか気付くことができたのです。ざっと思い付くだけでも、哲学、西洋美術、漢文、日本文化史、歌舞伎、イタリア語、被服史、そしてなんといっても宗教学。相愛大学でこれらの輪郭に触れたことが、今の私を形作っています。私一人の学びでは、こんなに幅広い出会いは得られなかったでしょう。自分がそれらに興味を持つということすら、想像できていなかったのですから。

相愛大学は私にとって恵みあふれる森のような存在でした。知らない木や見たことのない花や、出会ったことのない生き物を観察するうちに、私は私の中に、小さいながらもこんこんと水が湧き出る泉があることに気がきました。私が曲がりなりにも創作を続けられているのは、自分の中のその泉を大切にしているからだと思います。あらためて、深く感謝いたします。



人文学部イベント情報

すべてのイベントにはお申し込みが必要ですよ。

【本町学会】

★名越康文客員教授による公開授業

『宗教心理学』

2023年11月24日・12月1日・12月15日
2024年1月19日【金曜日 18:00~20:00】

★宮崎哲弥客員教授による

公開授業『現代人がもとめる仏教思想』

2023年11月25日・12月16日
2024年1月20日(※)・2月3日
【土曜日 14:00~16:00】
※16:00~18:00

【南港学会】

★人文学部教員による公開講座

『人文学を楽しむ Part6』

2023年11月25日・2024年2月3日【土曜日 14:00~16:00】



★徹宗・哲弥・哲夫三人による「三ツツ人の仏教問答Ⅱ」

釈徹宗学長、宮崎哲弥客員教授、笑い飯哲夫客員教授 豪華な顔ぶれです。お楽しみに!!

日時:2024年1月20日(土) 19時開演
場所:相愛大学本町学会
定員:一般受講者100名/受講料2,000円

※各イベント詳細については、大学HPをご確認下さい。



令和6(2024)年度 相愛大学人文学部 入試情報

入試種別	出願受付期間	試験日	合否発表日
推薦B入試			
寺院特別推薦B入試	11月30日(木)~12月7日(木)	12月17日(日)	12月22日(金)
一般編入学試験(前期)			
総合型選抜C入試			
一般選抜A入試	1月6日(土)~1月18日(木)	2月1日(木)	2月9日(金)
社会人特別入試			
一般編入学試験(後期)			
共通テスト利用A入試	1月6日(土)~1月22日(月)	本学独自の試験は実施しない	
一般選抜B入試	2月5日(月)~2月15日(木)	2月25日(日)	3月1日(金)
共通テスト利用B入試		本学独自の試験は実施しない	
一般選抜C入試		3月10日(日)	3月15日(金)
寺院特別推薦C入試	2月26日(月)~3月4日(月)		
共通テスト利用C入試		本学独自の試験は実施しない	

※入試に関するお問い合わせは、相愛大学入試課 TEL:06-6612-5905(直通)までお願いします。

新幹事紹介

36期生
令和4(2022)年度卒業

泉本 雪絵 菅原 龍樹
出口 若奈 松田 大和
MYU HNIN WAI



同窓会からのお知らせ

住所・氏名の変更について

学科名・卒業年・氏名(旧姓)・電話、FAX番号・郵便番号・住所・会員番号(会報郵送時の封筒に記載)をこれまでと同様、同窓会室宛にお知らせください。ハガキ、FAXまたは同窓会ホームページのご住所変更フォームにてお願いします。

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23
相愛学園内同窓会室 / FAX 06-6261-2040

記念すべき第20号

編集後記にもありますが、今回のお届けが第20号です。第1号のお届けから丸22年が経ちました。ということは第1号が発行されたころに生まれた人が卒業の年を迎えるほどの時間が経っているわけです。もちろん学部の歴史はもっと長いです。来年で、人文学部の設置から40年を数えます。

今回は文筆家としてご活躍の「糸加(いとか)」さんにご寄稿いただきました。これからもバリバリ活躍する卒業生のかたにご登場いただきたいと思っています。ご本人はもちろん、ご友人でもかまいませんから「ぜひ!この人を!!」という方のご紹介をお待ちしています。

編集後記 editorial note

今夏は各地で猛暑日が続出して全国的に大変な暑さでしたが、ようやく秋本番を迎えた今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

第20号をお手元にお届けいたします。2001年に発行された第1号からの時間の経過を考えると感慨深いものがありますが、会報を縁に大学や学生時代を懐かしく思い出していただければうれしく存じます。

過去帳納め

同窓会にお知らせがあった物故者のお名前(同窓生)を、毎年2月に大谷本廟の学園関係者過去帳に記入し、納めさせていただきます。

編集委員

磯本 和 一階 由香 中村 則子
松原 美佳 安田 圭佑 山田 容子
(五十首順)